

IDC MarketScape

IDC MarketScape: 世界の統合エンドポイント管理ソフトウェアベンダー評価 (2021年)

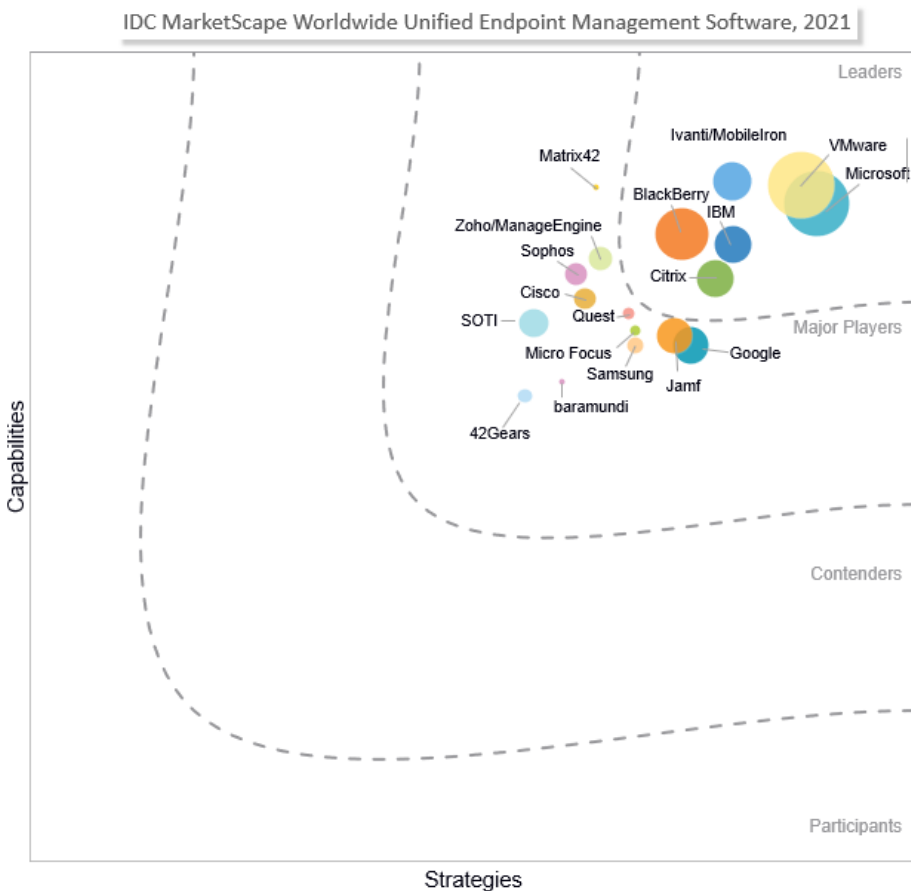
Phil Hochmuth

THIS IDC MARKETSCAPE EXCERPT FEATURES BLACKBERRY

IDC MARKETSCAPE FIGURE

FIGURE 1

IDC MarketScape : 世界の統合エンドポイント管理ソフトウェアベンダー評価



Source: IDC, 2020

調査方法、市場定義、ベンダーの評価基準については、「補遺」セクションを参照のこと。

調査概要

本調査概要の内容は、『IDC MarketScape : Worldwide Unified Endpoint Management Software 2021 Vendor Assessment by Phil Hochmuth (Doc # US46957820)』からの抜粋である。本抜粋には、「IDC の見解」、「IDC MarketScape における評価対象ベンダー選定基準」、「テクノロジーバイヤーへの提言」、「ベンダープロファイル (要約)」、「補遺」および「参考資料」のセクションのすべての内容、またはその一部が含まれる。また、Figure 1 も含まれている。

IDC の見解

企業の間で、PC、ラップトップ、スマートフォン、タブレットなどのエンドポイントコンピューティングデバイスの管理は、統合管理という概念に急速に収束しつつある。これは、単一のコンソールまたはソフトウェアツールを利用して、5 つまでの異なる基本システム (OS : Windows 10、macOS、iOS、Android および Chrome) のプロビジョニング、コンフィギュレーション、管理、監視および保守を行う概念である。2020 年に IDC が行った調査、「Enterprise Mobility Decision Maker Survey」によると、現在、米国企業の 4 分の 3 近く (72%) が UEM ソリューションを試験導入または完全導入しており、そのうち 45% の企業がパイロット (試験的運用) 段階を済ませている。しかし、どんなテクノロジーのコンバージェンスや変革の取り組みにも、(2000 年代初頭の TDM/VoIP コンバージェンス、または 2010 年代のクラウド移行を考えると) 部分的統合とハイブリッド管理のさまざまな状態のロングテールがある。エンドポイント管理のコンバージェンスも同じ道を辿ることが予想され、5 年後に、すべてのエンドポイントを UEM テクノロジーだけで管理できていると考える企業 IT リーダーは半数にも満たない。

ハイブリッド/レガシーデバイス管理のロングテールは、共同管理を意味する。つまり、最新の UEM とレガシー PC ライフサイクル管理 (PC life-cycle management : PCLM) ツールを介してデバイスにポリシーを適用するのであるが、これは多くの企業において標準的な状況である。エンドポイント管理リーダーの中には、最新の UEM ソフトウェアではサポートされていない (または容易に複製できない)、数年に渡って精巧に磨き上げられたスクリプトおよびカスタム構成オプションを書き換えたり、捨てたりしないリーダーもいる。しかし、IT 運用をゼロから開始する企業の中には、最新のクラウドマネジドのエンドポイントアプローチおよびプロビジョニングエンドポイントアプローチを選択して、初めから UEM を採用する企業もある。COVID-19 のパンデミックとリモートワーク/テレワークのワークフォースの拡大によって、多くの企業が UEM へのマイグレーションと最新のエンドポイントのプロビジョニングおよび管理を急速に進めている (ほとんどの UEM および最新の管理ソリューションは、企業の VPN およびネットワークリソースを必要とせず、あるいは重い負担をかけずに、インターネット/パブリッククラウドを介して影響を及ぼせる)。その実現に向けて、2021 年において UEM テクノロジーへの支出を増加させる予定であると 3 分の 1 を超える企業が述べていることからわかるように、UEM ソリューションへの支出は、米国および世界中の企業の間で、新たな年に向けた優先事項になると考えられる。(Source : 2020 年 10 月 15 日~30 日の間に実施された、IDC の COVID-19 Impact on IT Spending Survey)。

本調査は、世界中の 18 社を超えるベンダーからの製品提供を評価する一連の IDC MarketScape 調査の第 1 回目の調査の報告である。この調査は、最も広い、一連のデプロイメントシナリオと要件を考察して UEM ソリューション全体に焦点を当てる。しかし、1 つの UEM ソリューションがすべてのユースケースに適合するわけではない。今後の調査では、中小企業向けの UEM ソリューション、堅牢なデバイスと IoT 導入向けの UEM ソリューション、アップルのデバイス管理向けの UEM ソリューションなどに焦点を当てた基準に基づいて、具体的な要求事項や評価製品について検討する。

この調査のために、IDCは18社の異なるベンダーからの製品を分析し、UEM製品を使用している30社以上の顧客にインタビューをした。本調査で得られた主な知見には以下のものがある。

- ほとんどの企業は、さまざまなユースケースおよび/または地域サポート戦略のために複数のUEMソリューションを使用している。
- ほとんどのエンドユーザー組織が一体化した後に、チームのコンバージェンスができる。
- 市場のほとんどのベンダーの間で、5つのエンドポイントプラットフォーム（Windows、Mac、Apple、Android および Chrome OS）のサポートが一般的に行われている。
- エンドポイントアナリティクスおよび高度なテレメトリ収集とその分析は、先見の明があるUEMソリューションプロバイダーの多くにおいて、成長を続ける製品の構成要素である。
- 多くのベンダーは、エンドユーザーがどのようにデジタルテクノロジーと動作し、インタラクションするかについてのより大きな「ワークスペース」戦略に対するインフラストラクチャ/セキュリティコンポーネントとしてUEMを位置づけている。

IDC MARKETSCAPE における評価対象ベンダー選定基準

IDCは、次の重要な基準を満足するベンダーに、この調査に参加してもらった。

- PC、ラップトップならびにモバイルデバイス（スマートフォンとタブレット）のためのデバイスおよびアプリケーションの管理機能を提供するUEMスイートベンダーであること。
- 2019年（暦年）のUEM製品の収益が5百万ドル以上であるベンダーであること。また、収益は2020年5月に見積もられた収益であり、これ以降の市場シェア調査の数字と異なる可能性がある。

UEM市場には、この調査で取り上げられた会社以外にも、この調査のベンダー選定基準を満たさなかったが、関連性がある製品を有する会社も多く存在する。これらの企業には、Addigy、Amtel、HCL Technologies、Hexnode、Kandji、Prey Software および Verizon が含まれる。

テクノロジーバイヤーへの提言

- **基本的なモバイルエンドポイントサポート**：PCサポートに加えて、UEMプラットフォームのコアなモビリティ機能は、モバイルデバイス管理（Mobile Device Management：MDM）、MAMおよびMCMの分野にある。コアな機能コンポーネントには、セキュアなPIM、DLPおよびファイルアクセス制御の制限、アプリケーションのラッピング、SDK機能も含まれる。UEMプラットフォームは新しいユースケースおよび管理タスクに展開、発展しているが、これらのコアなUEMプラットフォーム機能は依然として基本的な要件である。
- **顧客の成功を実現する強力なUEM機能とロードマップ**：今日のUEMプラットフォームは、スマートフォンおよびタブレットを管理することが多いが、UEMにとっては、ラップトップおよびPC（WindowsおよびMacの双方）ならびに新興のGoogle Chrome OSデバイスの管理も、さらに重要になっている。グループポリシーオブジェクト（Group Policy Object：GPO）およびPC画像管理フレームワークの移行や、UEMベースの最新の管理へパッチングとソフトウェア配布のモダナイゼーションも今後重要な課題になってくると考えられる。
- **付随的、補完的なIT製品、サービス、ソリューションの強力なポートフォリオ**：テクノロジーを導入しているユーザーによると、UEMプラットフォームとの密接な統合には、ID、クラウドアクセスセキュリティブローカー（Cloud Access Security Broker：CASB）、ITサービスマネジメント（IT Service Management：ITSM）、ITアセット管理、ネットワークセキュ

リティ、エンドユーザー生産性アプリケーションなどのソリューションすべてが重要となる。

- **レガシーおよび最新の PC 管理サポート機能の広範なセット：PCLM** および従来の管理要件といったロングテール存在は、レガシーおよび最新のエンドポイント管理シナリオの双方に対処できるソリューションが、デプロイを行う企業に最大の価値をもたらすことを意味している。
- **ワークスペースインテリジェンスとアナリティクス**：エンドポイントとエンドユーザーのアクティビティを広い観点から眺めると、UEM プラットフォームは、企業ワーカーの行動、デバイス、アプリケーション、データの使用パターンおよびソフトウェアのパフォーマンスと可用性の分析に関するデータの収集とアナリティクスの中心になりつつある。これらの重要なメトリックに関連する強力なアナリティクス機能とレポート機能を持つ UEM ベンダーは、この分野に焦点を当てていないベンダーよりも競争優位性を手にするであろう。
- **法人を対象としないデバイスつまり BYOD ユーザーをサポートする機能**：従業員個人のパーソナルモバイルデバイス、つまり BYOD (Bring Your Own Device) に対するサポートは、UEM プラットフォームの地位と全般的な管理範囲を拡大させる上で重要である。企業の 90%以上が BYOD をサポートしているため、企業は、BYOD のデバイスに対し、自社所有のデバイスと同じレベルで、きめ細かなポリシーの施行、セキュリティおよびこれらのデバイスがアクセスするアプリケーションとデータに対するコントロールを適用できるツールを見つけなければならない。
- **条件付きアクセス制御とポリシー施行のきっかけ**：これは、UEM プラットフォームの重要な機能になりつつある。どんなアプリケーションやデータまたは他のリソースにユーザーがコネクティブできるか、また利用できるかの条件付きアクセス制御は、ロケーション (GPS ロケーションとネットワークのコネクティブ性のタイプ)、日にち、エンドユーザーの ID と役割、ならびに使用されているデバイスの状態または健全性のような多数の要素に基づいている (ジェイルブレイクされた / root 化されたデバイスであるか、または、もはやサポートされていない OS であるかという観点から、デバイスの状態または健全性が判断される)。
- **スケーラビリティとクラウドベースの配信機能**：ほとんどのベンダーがあるレベルでこの配信モデルを提供していることから、クラウドは UEM 市場の未来の姿だと言える。SaaS ベースの UEM は、エンタープライズモバイルコンピューティングのモバイル / クラウドのシナジーに適合し、これによって、企業は、オンプレミスサーバを立ち上げ、維持し、IT リソースをサポートする必要なしに、モバイルデバイスへ、それがどこにあるうとも、UEM 能力をフレキシブルに導入できる。特に金融および政府機関のようなセキュリティに敏感な産業、またはさらに厳しいクラウドデータプライバシー規制を有する欧州連合諸国など、いくつかのオンプレミスの導入シナリオを必要としている企業がまだまだ多く存在するため、ハイブリッドは、依然として UEM が所有すべき重要な機能である。

ベンダープロファイル (要約)

本セクションでは、本 IDC MarketScape におけるベンダーのポジションを導き出すに至った IDC の重要な見解を簡単にまとめている。なお、各ベンダーに対する評価は「補遺」のセクションに記述する基準に基づいて行われている。本セクションでは、ベンダーの強みと課題をまとめている。

BlackBerry

BlackBerry は、『IDC MarketScape for worldwide UEM software 2021』ではリーダー (Leader) のポジションとなった。現在、BlackBerry Spark Suite と呼ばれているソフトウェア群の一部である BlackBerry Spark UEM は、同社が UEM および統合エンドポイントセキュリティ (Unified Endpoint Security : UES) を中心に提供しているデュアルセキュリティ / 管理戦略の一部である。AI ベースの

エンドポイントセキュリティとエンドポイント検知および対応におけるイノベーターである **Cylance** の買収に伴い、**BlackBerry** は **UES** 向け戦略および **UEM** において新たに出現しつつあるセキュリティ機能の大部分を手にしたが、この機能は、高度な脅威、行動ベースのセキュリティ検出および他の次世代セキュリティ機能に焦点を当てている。

UEM の観点から、**BlackBerry Spark UEM** は、最も広く使用されているデバイス **OS** の 4 つである、**Windows 10**、**iOS**、**Android**、**macOS** に対応している。**OEM** 標準および展開モバイルフレームワーク (**Apple Business Manager/DEP**、**Samsung Knox Mobile Enrolment**、**Android Zero-Touch Enrollment**) への対応も十分である。これは、最新の **Windows** 管理のために **MDM** プロトコルへ結び付けた **UEM** プラットフォームを介した **Windows 10** のデバイス管理、アプリケーション配信およびポリシーの施行の先進的な機能サポートを備えている。また、**BlackBerry** は、いくつかのアドオンソリューションを提供しており、リモート従業員およびオフネットワーク従業員のサポートに役立つように、**UEM** 製品に統合している。**UEM** 製品には、社内の **Web** アプリケーションやサービスへのインターネットベース (**VPN** 以外) のアクセスをリモートワーカーに拡張することを目的としたセキュアなモバイルブラウザソリューションである **BlackBerry Access** が含まれている。**BlackBerry** は、ファイアウォールの内側にあるほとんどのアプリケーションがクラウド/**SaaS** ベースまたは企業ポータル/イントラネットリソースで配信されているユースケース向けの **VDI (Virtual Desktop Infrastructure** : 仮想デスクトップインフラストラクチャ) に代わるオプションとして、このソリューションを推進している。また、**BlackBerry** は、**VDI** 管理ベンダーである **Awingu** とのパートナー関係にもあり、**BlackBerry UEM** と仮想デスクトップデプロイメントとの統合が可能である。

BlackBerry の幅広いセキュリティ/業界コンプライアンス認証 (**FedRAMP**、**FIPS 140-2**、**NIAP Common Criteria EAL4+**) も、連邦政府、金融、規制業界に大きな顧客基盤を持つ同社にとって強力な強みである。セキュリティと政府のデプロイに関する補完的な製品には、**Secusmart** の携帯電話音声セキュリティと暗号化テクノロジー、**AtHoc** 社のクリティカルなイベント管理プラットフォームなどがあり、どちらも **UEM** プラットフォームに統合されているか、スタンドアロンでデプロイできる。

強み

BlackBerry Dynamics プラットフォームによって、**BlackBerry** は、セキュアなアプリケーション開発、デプロイメントおよびライフサイクル管理に関する強力なソリューションを有し、特にデータセキュリティおよびコンテナ化に焦点を当てている。これは、データセキュリティおよびデバイス/アプリコンプライアンス監査の要求が高く、規制の厳しい業界の企業の多くにとって必須の要件である。

BlackBerry スマートフォンのデバイス **OEM** としてのレガシーを持つ **BlackBerry** は、モバイルオペレーターとの広範なパートナーシップと統合ラインアップにおいて、世界中の **UEM** ベンダーの中で群を抜いている。各地域の主要キャリアは、**BlackBerry Spark UEM** やその他のソリューションのサポート、再販を行っているため、**BlackBerry** は企業と (主にキャリアチャンネルとモバイルオペレーターパートナーからモバイルテクノロジーを調達している) **SMB** の両方にとって魅力的な選択肢となっている。

Cylance を活用した **BlackBerry Spark UES** によって、同社は、新たに導入されたモバイル脅威管理ソリューションである **BlackBerry Protect Mobile** および **BlackBerry Persona** のユーザー行動アナリティクスと継続的認証ソリューションとともに、広範なエンドポイント管理/セキュリティテクノロジーポートフォリオを提供している。

BlackBerry は、**BlackBerry Dynamics** セキュリティコンテナアーキテクチャにおける **Microsoft Office365** アプリケーションのセキュリティ/管理および **Microsoft Graph API** を介した **O365** アプリ

ケーションへのポリシーの適用を目的とした、Enterprise BRIDGE ソリューションとの強力な Microsoft 統合機能を備えている。

課題

BlackBerry による Windows 10 のサポートは、主に MDM/最新 OS 管理に集中している。同社は、従来の PC 管理機能 (GPO サポート/トランスレーション、システムイメージング/管理、ソフトウェア配布) を中心に、より少ない能力しか持っていない。しかし、1E などの BlackBerry パートナーシップによって、これらのユースケースはサポートされている。

BlackBerry Spark UEM は、macOS には積極的なサポートを提供していない。Mac デバイスイメージング/ディスククローニング、Mac App Store ポリシーの施行および制御ならびに Mac デバイスへのソフトウェア配布など、より大規模にアップルの製品をデプロイしている多くの企業にとって重要な特定の macOS 機能が欠けている。BlackBerry が提供しているのは、OS の MDM プロトコルを介した macOS の基本的な管理とプロビジョニングへのサポートである。

BlackBerry は、銀行、政府、医療などのセキュリティを重視する、規制の厳しい業界で広く使用されている。

BlackBerry を検討すべき場合

特に規制の厳しい業界にある、セキュリティとコンプライアンスを重視する企業が、UEM の幅広いユースケースとデプロイメントを必要とする場合、BlackBerry の採用を検討すべきである。

補遺

IDC MarketScape Graph について

IDC では、企業の成功の可能性を示す主要な指標をケイパビリティ (能力) と戦略の 2 つのカテゴリーに分けて分析している。

Y 軸は、サービスメニューや顧客ニーズへの貢献度のような、ベンダーの現在のケイパビリティを示す。このケイパビリティは、現在の企業や製品の能力に関するものである。このカテゴリーに基づき、IDC アナリストは、市場戦略を遂行する上で、こうしたケイパビリティをどのように築き上げ発揮しているかを分析している。

X 軸は、ベンダーが 3~5 年後の将来に、顧客からの要求に応えられる度合いを示す戦略軸である。この戦略軸は、高度なレベルの意思決定や製品/サービス提供、顧客セグメント、事業に関する計画、3~5 年後の顧客への製品/サービス提供計画に関するものである。

IDC MarketScape での個々のベンダーのバブルの大きさは、評価の対象となっている特定の市場セグメントにおける各ベンダーの市場シェアを表している。

IDC MarketScape 調査方法

IDC MarketScape の評価基準、重み付け、ベンダースコアは、市場やベンダーに関する十分な調査に基づいた IDC の判断によって設定されている。IDC アナリストは、標準特性の範囲を定め、その基準に基づき、市場のリーディングベンダー、市場参入ベンダー、エンドユーザーとの議論、サーベイ、インタビューを通して、ベンダーの評価を行っている。市場の重み付けは、各市場に関するユーザーインタビュー、バイヤー調査、IDC の専門アナリストで構成される委員会のレビューに基づき行われている。IDC のアナリストは、詳細な調査、ベンダーへのインタビュー、公開情報、エンドユーザーの経験に基づいて、各ベンダーの特性、行動、能力に関する正確で一貫性のある評価を行うことで、個々のベンダーのスコア、IDC MarketScape における最終的なポジショニングを提供している。

市場定義

統合エンドポイント管理 (UEM) は、クライアントエンドポイント管理機能ソフトウェア市場の中のテクノロジーサブマーケットカテゴリーに属する。UEM ソリューションは、最も一般的なエンドユーザーコンピューティングのオペレーティングシステム (たとえば、Windows、macOS、iOS、Android、Chrome OS など) とデバイスタイプの管理機能とプロビジョニング機能を単一のソフトウェアプラットフォームに統合している。定義として、UEM 製品は、モバイルおよび PC エンドポイントの双方を管理できなければならないが、PC ライフサイクル管理 (PCLM)、PC イメージングソリューションおよびモバイルデバイス管理 (MDM) などのレガシープラットフォームは除外されている。

関連調査

- *Worldwide Unified Endpoint Management Software Forecast, 2020-2024* (IDC #US46460520, 2020年9月発行)
- *IDC TechScape: Worldwide Intelligent Digital Workspace, 2020* (IDC #US46763120, 2020年8月発行)
- *Worldwide Unified Endpoint Management Software Market Shares, 2019: Endpoint Management Convergence Drives Market Growth* (IDC #US45173520, 2020年6月発行)

Synopsis

この IDC 調査は、IDC MarketScape モデルを介して統合エンドポイント管理 (UEM) ソフトウェアを提供しているプロバイダーのベンダーの評価を表している。この評価では、UEM ソフトウェアに対する現在の市場需要および予想されるバイヤーのニーズを定義している特性を定量的および定性的にレビューする。この評価は、各ベンダーを他のベンダーと比べて評価する包括的かつ厳格な枠組みに基づいており、この枠組みは、UEM 市場において、短期および長期に渡る成功を収めるために最も重要であると予想される重要な要素にハイライトを当てている。

IDC の Enterprise Mobility and Client Endpoint Management のプログラムバイスプレジデントである Phil Hochmuth 氏は、「一般的なエンドユーザーのコンピューティングのユースケースとワークロードに関して言えば、企業は、エンドポイントデバイス管理の専門化から (ツールと IT 要員が別々の必要である観点から) 離れつつあります。多くの企業は、UEM を、さまざまなデバイスフォームファクターとユースケースに渡るテクノロジーによるエンドユーザーの経験を合理化するためのより大きな戦略の一部とみなしています」と述べている。

IDC 社 概要

International Data Corporation (IDC) は、IT および通信分野に関する調査・分析、アドバイザリーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。50年にわたり、IDCは、世界中の企業経営者、IT 専門家、機関投資家に、テクノロジー導入や経営戦略策定などの意思決定を行う上で不可欠な、客観的な情報やコンサルティングを提供してきました。現在、110か国以上を対象として、1,100人を超えるアナリストが、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。IDCは世界をリードするテクノロジーメディア（出版）、調査会社、イベントを擁する IDG（インターナショナル・データ・グループ）の系列会社です。

Global Headquarters

5 Speen Street
Framingham, MA 01701
USA
508.872.8200
Twitter: @IDC
idc-community.com
www.idc.com

Copyright and Trademark Notice

This IDC research document was published as part of an IDC continuous intelligence service, providing written research, analyst interactions, telebriefings, and conferences. Visit www.idc.com to learn more about IDC subscription and consulting services. To view a list of IDC offices worldwide, visit www.idc.com/offices. Please contact the IDC Hotline at 800.343.4952, ext. 7988 (or +1.508.988.7988) or sales@idc.com for information on applying the price of this document toward the purchase of an IDC service or for information on additional copies or web rights. IDC and IDC MarketScape are trademarks of International Data Group, Inc.

Copyright 2021 IDC. Reproduction is forbidden unless authorized. All rights reserved.

